

★予選は短距離のようにゴール

青木の持ち味である「暑さに強い事」…が味方する天候であった。

連日35度越えが続き日本中が酷暑。偶然だが8月4日のニュースでインターハイに利用した特急「くろしお号」の運転手が、熱中症で気を失ったとあった。つまりそれくらい暑い。2006年の大阪インターハイも暑かったが、水分補給だけでは身の危険を感じるほどの暑苦しさ。

とはいえ、選手、監督の方がもっと辛いのが、OBがだらしない恰好はできない。プレッシャーにならないよう平穩に応援に行った。

前日の予選で、9分9秒99の春高記録で通過！！午後1時半に大喜びだ。

予選は4組3着+4名。最終4組の青木はラストスパートが冴えわたり、トップ集団でゴール。前の3組に比べて圧倒的に速いタイムだ。これは前の組をみてペースを速めたのか？…あとで青木に聞くと、3組までのタイムを見ている時間はなく、偶然だったという。これも運命。

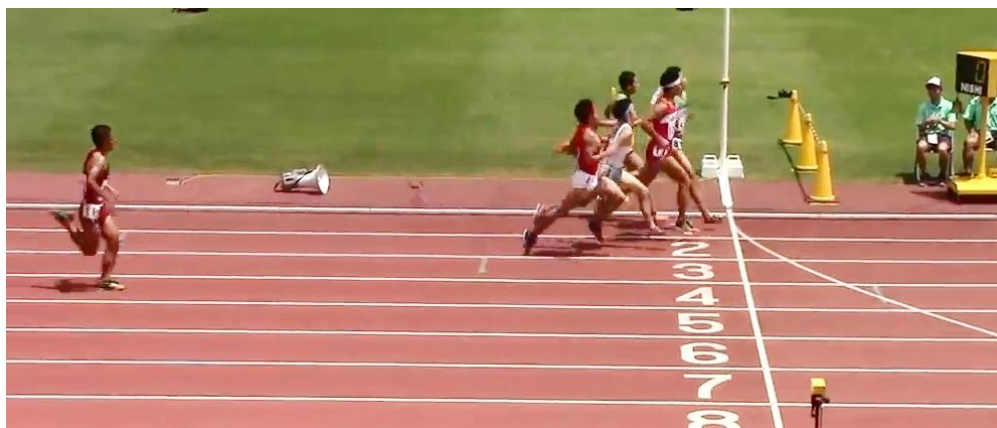
予選ラスト 100mではトップと
これだけの差があったのに・・・



青木のダッシュ力。
ものすごい速さで追う。



一気に青木のスパート爆発。あっという間に
40mあった差はなくなっていき・・・



まるで100mでも見ない様なゴール。5人が0.1秒差に並んで同時に入った。この青木のダッシュが決勝を決めた。

間違いなく風は青木に吹いている。

★赤シャツ対駅伝列強高校との戦い

さすがにインターハイ決勝。顔をそろえたのは外国人留学生、世羅、小林、市船、久我山、洛南、成田、九州学院、学法石川…私はこれを観てぞくぞくとした。ケニア人留学生、都大路駅伝の常連校らと春高のKが対等以上に競っているのである。これを応援しないわけにはいかない！

ここに揃ったのはブロックを勝ち抜いた猛者ばかり。昨日の予選でコンディショニングが悪い選手は落選している。高校生の国内最高峰レース。次は無いのだ。気が付けば決勝の舞台には青木以外北関東勢はいない。あれだけ好調だった栃木勢は全滅だった。全国の決勝の厳しさ。途中の大会の記録は参考でしかない。このラウンドにたどり着くことが全てである。

ここに並んだ面々は、冬の都大路駅伝を走るメンバーなのだ。

14時現在、おそらくトラックのフェイスは50度を超え、陽炎が…そんな中、男子3000mSC決勝が始まった。



青木はもっとも内側のレーンに。

スタート一閃。みな飛び出す。

青木は最後尾について様子を見るという秋庭先生の作戦通り。

秋の国体にこの種目がないので、高校生最高のパフォーマンスレースはインターハイ決勝であるのは間違いないのだ。秋庭先生は5年前の大久保（前春高記録保持者）のインターハイの時に痛感したという。持ちタイムのランキングなど何の関係もない。核になる選手のゆさぶりに、崩されずついていける能力がインターハイの決勝には必要だ…と。



駅伝エリート高校がそろそろ決勝。
高校アスリートとして最高の舞台である。

集団は崩れない。青木は集団に囲まれないように逆にうまくペースを守っている。スタンドから見ても、遅れているのではなく、明らかに冷静に見ているのが分かった。

やがてケニア人留学生が先頭に出始めた。ここでゆさぶりが始まった。

先頭集団は表彰台から落ちまいと苦慮する。青木はこれらを後方から観察していた。

ラスト2周で青木が出てきた。

失速する選手たちをどんどんとらえていく。ファイナルラップまでで4人を追い越した。

残り200mで、また捉えた。学法石川、九州学院、世羅などの選手を引き離す。

水濠を越えても青木のスピードは落ちない。



直線ではさらに京都洛南、市立船橋をかわした。

周囲は苦悶の表情だが青木は毅然と表情を崩さない。スピードはまったく衰えず、ゴールを疾走した。後半7人抜きをやってのけて8位入賞を果たした！



最終障害で市立船橋。京都洛南を振り払った。



春陸100年の歴史的瞬間！

8位入賞の瞬間！！

私はファイナダー越しの青木の表情に驚いた。ほかの選手は疲弊して這いつくばっている。そんな中、青木はこちらに笑顔で応えてくれたのだった。

底知れぬスタミナ…真夏の勝負レースでこの記録。タイム狙いだったらいったい何秒が出るのか？…



青木は笑顔のゴール。
一人だけにこやかに笑っている。
周囲ははいつくばっている。
無尽蔵のスタミナ！恐ろしいほどタフ

立ち上がることもできないほかの選手たち。みな全国のトップ10の選手なのだが・・・



3000SCの日本記録をマークした事もある杉崎先輩は語っていた。「いやあ..夏の3000mSCはさあ、きついんだよ。レースの後は飯がのどを通らないんだ...」

また、ユニークな事に、青木のお父様は違う考えを持っていた。「涼真は暑くても寒くても環境の変化をうけないのです。ですから逆に酷暑でみなさんがしんどいときの方が結果はいいかもしれません」...なるほど気温の影響を受けにくいタイプ...まあ、勝負強い事に変わりはないのだが...

その3へ

OFFICIAL RESULT		男子 3000mSC		NHR	8:44.77
決勝				GR	8:41.46
1	1234	ジョエルムアウ	倉敷		8:52.57
2	839	荻野 太成	加藤学園		9:00.05
3	514	大木 皓太	成田		9:01.78
4	1664	牧野 光留	小林		9:04.85
5	577	遠藤 宏夢	久我山		9:06.63
6	1294	野田 一輝	西京		9:07.01
7	249	佐々木守	山形中央		9:07.82
8	432	青木 涼真	春日部		9:09.29
9	524	佐藤 友哉	市立船橋		9:11.61
10	1005	吉田 匠	洛南		9:11.63